

小学校統合の検討状況について

【1】複式学級のある学校の方向性

1、栗林小学校

2/5、栗林小学校PTAと懇談

統合先：鶯住居小学校（資料4-1）

統合時期：令和9年度

※栗林小の入学児童数は、令和9年度は1人、令和10年度は0人となる見込みがある（資料4-3）

⇒鶯住居地域への説明も行い、統合に向けて協議・検討を進める。

2、白山小学校

1/29・2/20、白山小学校PTAと懇談

統合先：平田小学校か釜石小学校（資料4-1）

統合時期：令和12年度以前か

※白山小の入学児童数は、令和12年度と13年度は0人となる見込みがある。（資料4-3）

⇒統合先について、釜石小学校の検討状況等踏まえて、再度、保護者の意向等を確認し検討を進める必要がある。

3、唐丹小学校

2/20、唐丹小学校・唐丹中学校PTA役員と懇談

⇒現在の5中学校区に小学校を1校は存続するとしている基本方針に沿って、統合は行わないが、複式学級が継続していく見込みであることから、今後も継続して、PTAや地域との協議を行っていく。

【2】複式学級が見込まれる学校の方向性

1、釜石小学校

- ・ 「令和20年までの児童数の推計値」（資料4-1）から、釜石小学校と双葉小学校を統合した場合でも、令和13年度頃から、児童数が100人を下回ってくる見込みである。
- ・ また、釜石小学校、双葉小学校のほか、双葉小学校と距離的に近い小佐野小学校の児童数についても、令和6年度から令和12年度の間、40%以上と大幅に減少することが見込まれる。
- ・ このことから、小佐野小学校を含めた統合を検討する必要があるのではないか。

（資料4-1）

⇒今後の児童の推移を見定めつつ、使用する校舎や統合時期、学区のあり方、学童育成クラブの受入れ体制などの課題について、地域、PTA、関係者と十分な協議を行って、3校統合の方向性を定めていく必要があると考える。